

成形圖說

農事部

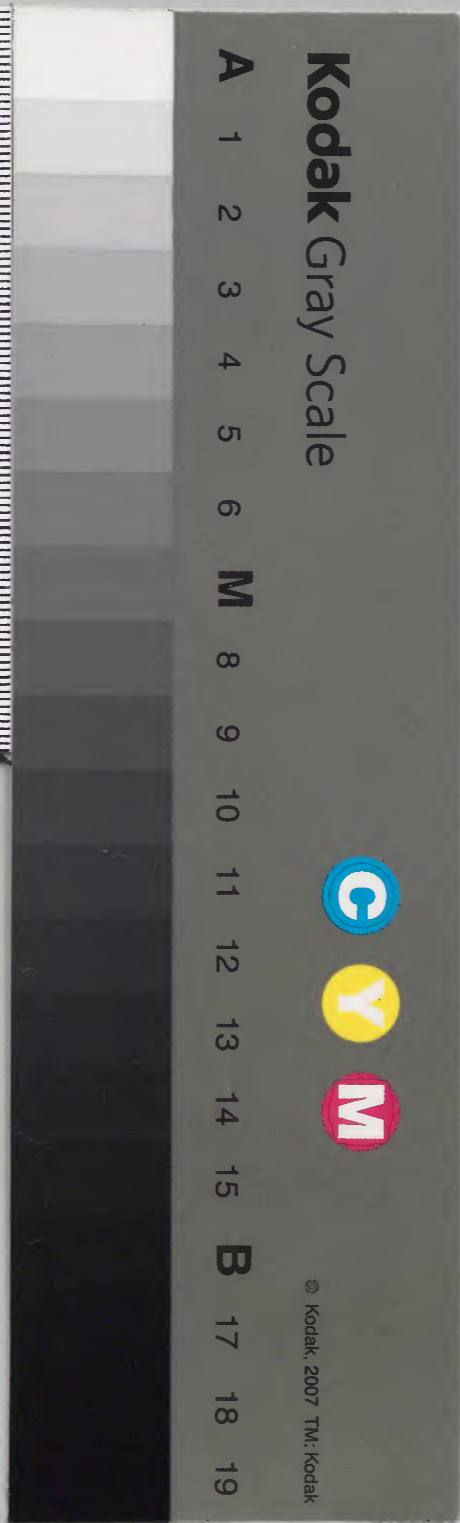
十三

農務省
和圖書
第九三五號
共三〇册

太政官文庫
和書門
八一九二
類號
函架
三〇册

內閣文庫
和書
八一九二
類號
函架
三〇册

內閣文庫	
番號	和 8192
冊數	30 (13)
函號	196 102





成形圖說卷之十三

農器 内目錄

耒耜

鋤耨

耜耨

杖耨

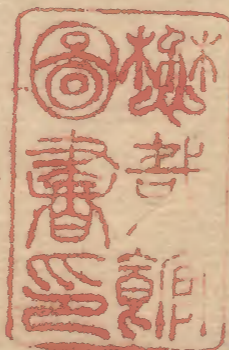
鐮耨

杷耨

鐮耨

附犁具

附鐮鋤



成形圖說卷之十三

箕籠 ニルヒ
賜扇 モミルマ
賜籃 モミルヒ

附篩穀撈

附千斛筵

鈎擗 カサキ
耘把 クサカキ
長鏡 フクシ
鎌鍬 カキ
鉄鉞 テサカリ
橋楫 カシキ
拖把 トキ
連枷 カラサネ
白碓 シラカミ
礮磨 カサ

附鉞鉤

附穀把

附鷓鴣鋤

附陶臼

成形圖說卷之十三

農事部類

田乃器書紀○和名鈔

農器孔子家語銷劍戟為農器凡田器耕器農具耕具多の

通二州往河北按行水災還奏田器有筭非所以重本請除之因詔天下農器皆免筭 田器禮記月令

蕃名

元正天皇詔曰朕巡京城遙望郊野芳春仲月草木滋榮東
候始啟丁叔就隴畝之勉時雨漸澍有蟄蠢浴灌之悅何不
流寬仁以安黎元布涼化而濟萬物乎宜給戶頭百姓種子
各二斛布一常整一口令農蠶之家永無失業官學之徒專

忘私ワシ又養老五年詔諸國官長等に鍬各二十口を賜ひ農
 耕を勸勵カウチ志あるはふはと河の農戸はとちち田舎牛馬と
 持ざれば耕獲ともよ徳の力とつひやしカウチ耨チ耘キの功とい
 ちぢふしかぢぬものあればや抑又百姓の田舎と貯ふ
 るはとハ宜しく武夫の兵具と藏るごとくあらんが
 しいちどの好農具と持よりとも之とありあつとい
 く耕し耘ハタラキの做工こまやかありさまは刈キ割ハ刺チ撃キ
 の鋤ウミを志すざらとのふの鋸ノコの巧拙と鑿ウツ貴しを鏡
 鏡と試シ之ノ取リふコト異コトありすと天正の末豊太閤既ニ海内と
 靡ミびして百姓の刀ヤブ鋸ノコを停止せられハ一揆と戒む

るの心得よて其條書の中よ百姓の農具はともち耕作
 ともよいゝゝゝハてハ子孫おのづから長久あるべきよ
 と唐堯の寶劍と農器キをキ用キわれしごとくキもキ農業成
 心掛カありしとんキりキ蓋唐斐度り鑄テ劍戟ヤブ為農器賦トあり
 凡、五方乃農圃一州の内ふして其所用ハ各のちりとち
 名状ハ互キ同キりキざるものちりキずキあれば又編アヒを
 畝ウエ寫キるキ不及キいキかキ絶域キよむては耨チ車キ砵キ車キのキ碓キ
 碓ウシ礮キの制キ何キり極キと生巧便あると稱道といキとキ
 今此方の者越して俄キ之キを使ハ志あるは終日ヒトスミ礮キと
 してキ沖キ繩キのキ人キは雙キ刀キ越キ佩キやちキらんキろキぶとキ纏キねキてキ冒キ喘キ

くみほほささむ然るも心せ爰に用うる者あはば農家の
小補ともあらんぐり況や民事ハ常子違あま城若しこ
カと役るまば若しは凡耕地の法ハ稗と通はるしと
うべ抄に用るものうらむ菘と糞ふまでまててうらむ
し始て福田平に泣壊熟あまの全功成得るよままら
志くるよ農の事常子懲苛よ支られて耕耘数徧うらむ
其新秧と拔挿はく且ハ其穫収搗治など常子時小治
候よ應さるるゆゑ勅とれバ火水雨暘の和氣と失ふの
爰あり是れ小養老の帝寛仁と流て糸物と減ふもの先
衣糧と先少して饑寒の苦と救ひ同て整城併せ給ふよ

むと鳴呼我 先王黎元と安むるの道そおかくの如
小して固空の隆あるの清まつらばともすえさせまふ
あふべし同し 朝廷の詔曰今者有司奏言諸國罪人物
四十一人准法並當流以上者每聞此奏朕甚愍之宜所奏
罪人並從坐者咸皆放免勿案檢焉 日本國中の罪囚僅
よ四十人餘とて天子の慮慮哉惱ませまふとあると
見て萬方有幸在予一人此ありさほと想像しあふる
あふるや南史云宋高宗微時躬耕及受命耨耜之具頗
存命藏之以留于後文帝幸舊宮見而色慙近侍進曰大舜
躬耕歷山伯禹親事水土陛下不觀遺物何以知稼穡之艱

難先帝之至德乎志くるよ今わごし國ハ人くらさあーく
 土地ともろーかくざらぐゆゑよあまののどし一言の
 であまのの意城を耕しぬるまぜあらしむとて文よ
 記しぬるよとあの上乃意ふととあはやくよとさうし
 くに記つてあまのまかろあせぐーといひ草をくりよ
 怒ばし川づゝひあんあやりのの上は何の益あまの
 小しあまの田畚の筒當と擇て耕の業成精しく勤ん
 とおのさむよのけよろく徑為く後節して後稼播の
 成績とやあはゆると云



耒耜亦云牛鋤

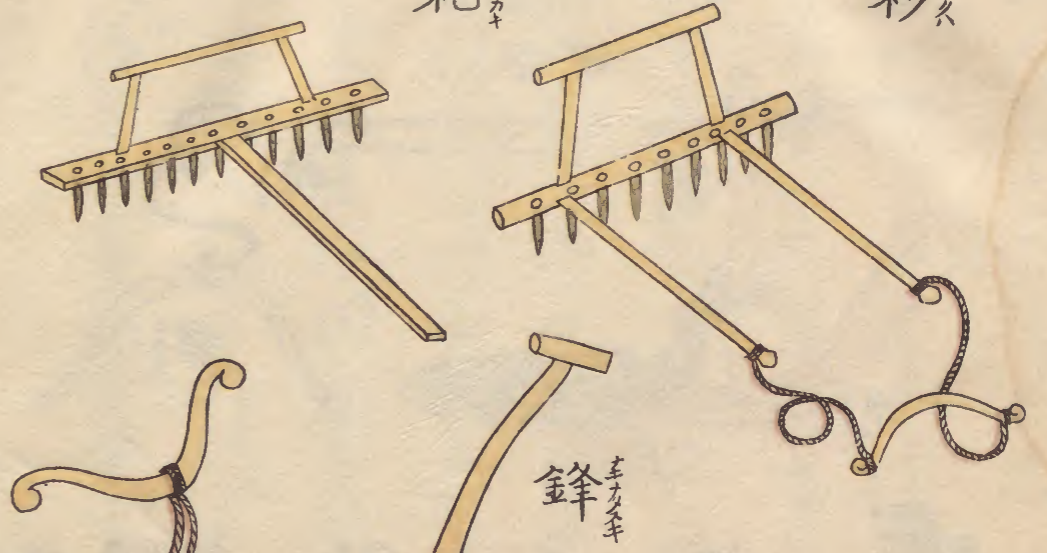
古製鉏鏡

美濃鉏
砂礫の地
耕るし

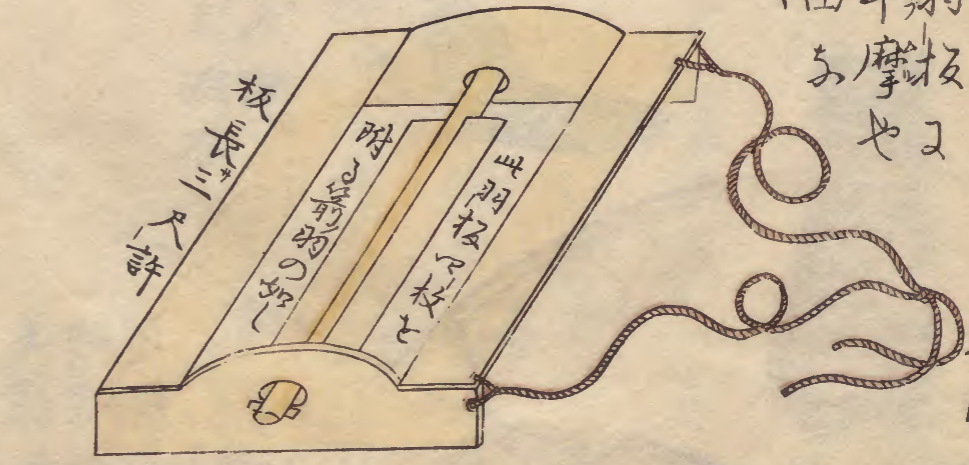
持立鋤亦
云大鋤亦

耨

耨



此物前後の両板に人跨りて牛を牽ぐ中軸に
此物前後の両板に人跨りて牛を牽ぐ中軸に
此物前後の両板に人跨りて牛を牽ぐ中軸に



此軸輓
こつと
軸大圍
四寸許

須伎

書紀耨の字と刻り
志貴

金耨

於古志

牛鉞

柄

新撰字鏡

其形耨の前後長短の異なるものなり
耨と牛鉞とを合して耨と云ふ
耨の字と刻り
志貴
金耨
於古志
牛鉞
柄
新撰字鏡
耨の字と刻り
志貴
金耨
於古志
牛鉞
柄
新撰字鏡

蕃名プルウグ

古語拾遺曰齋部官掘以齋鉏而造伊勢宮及大嘗由紀主

成形圖說卷之十三

基宮蓋上世の時欽^{スギ}てふもの田を耕し土を起すものむ
かりよあはば凡ハ去穢^{カキ}挿地^{ツカ}の忌^{ウラ}あれバその名須伎と
いふ一あや大嘗會の時由紀主基の田よりいふあり由紀
ハ斎忌^{イハキ}あり主基ハ濯^{スギ}みて盆に清齋の辭とん又古事記
雄略の大御歌より地をわらうともいふ故号^テ其岡^ヲ謂^フ
金鉏^{カナ}岡也^{スヤノヨカト}ともいふえゆるハ土と撈^{スリ}ひよるの事よりいふ
あり書紀より御田^{ミタ}鍛^{タメ}てふ人名あり又送飯^{ツク}といふこと
くと新字鏡より糺^スといふこと凡物と取よるよ須
久比の埴^{ウツ}わりよに掃^{ウツル}とよひることいふ或ハ魚とよみ
と結^{スヒ}紙と抄^{スヒ}あど皆物と掃^{ウツル}ひして土はよいつり掬^スる

子よあがりるも蘇^スもまあどいふてんくよ長^{ナガ}推^スとい
ふもの糺^スもいふまげていふありよありていぬること
そわびきうねじかりけと蓋^{オホムカシ}太^{オホ}古^{ムカシ}の耜^シハ或^オ金^{カネ}或^オ木^キか
るう木^キの柄^カと穂^ホ一^{ヒト}つ柄^カ耜^シの名^ナハいつまにありとん
えとら毛^モ割^カの毛^モハ浸^シまハ糺^スよあはしよ物^{モノ}されど
神代^{カムヤマト}の町^{マチ}より年^{トシ}ごと田^タを耕^{ウツ}ひあはのありしよいふも
美濃^{ミノ}の耜^シてふものいふこといふて或^オハ耜^シの柄^カと曲^{カマ}て牽^ヒ
せしあはん西^セ土^{ツチ}よてむじりハあや曲^{カマ}尖^{ササ}らして耜^シ
作^{ツク}るとも又^{マタ}後漢^{コト}書^シよは九^ク真^{マコト}の俗^{ソク}牛^{ウシ}耕^{ウツ}と知^チくざらう事
とあはれを西^セ土^{ツチ}よも牛^{ウシ}よあはしハ浸^シのわびああり

金布久志 カ子 端 カキ 以上和 柄耜乃端 耜端 カキ 此の中子少

長八寸八分許 闊五寸八分許 陸龜蒙耒耜經治金而為 鍤犁鏡尖 本

耒耜者曰耒鏡起其境者也 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒底 和名 犁底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒底 和名 耒底 農政全書

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本 耒鏡 本

蕃名

取首トリクビ

和名 鈔

福利訓蒙圖彙

長柄ナガエ

朱轆

漢語 鈔

犁轆ツラ 農政全書

蕃名

追立オヒタテ

訓蒙圖彙

朱梢

漢語 鈔

犁梢ツラ 農政全書

蕃名

引鉤ヒキフック

俗音 備 年頭留

尻懸シリカセ 和爾 雅

耕槃

農政全書 駕犁具也 與軛相為木末 ○耒耜經 橫於犁轆之前 耒曰槃

蕃名

耜乃柄シノエ 延喜式

犁轆

犁轆ツラ 以上 鄉談正韻

犁柄ツラ 過庭錄

蕃名

凡犁ツラ 又打延ヒキ 持鏡モチキョウ の二件フタツ 有り打延ハ底板より梢ツラ と附く
梢の末ツラ 又片柄ツラ 各一丈出したるツラ 小木の柄ツラ と執ツラ 是右
小末の柄ツラ と執ツラ 耕ツラ たり因ツラ 打延ハ只ツラ 并ツラ くは土ツラ 伐ツラ して
深淺ツラ と自由ツラ 志ツラ ざし ○持鏡モチキョウ 一名ハ持立モチタテ 是鏡ツラ 亦より梢ツラ
と附て梢の端ツラ 子ツラ 横ツラ 木ツラ 一ツラ 又ツラ 多ツラ 少ツラ ありて是ハツラ 按ツラ 軛ツラ たり
ほゞツラ 少ツラ く耕ツラ むと疑ツラ ありつゝツラ 少ツラ く押ツラ 一ツラ 歩ツラ くとる
みは弱ツラ く押ツラ ありは生ツラ 淺ツラ 深ツラ ありて自由ツラ と志ツラ し凡田土

と起オシカヌ堦ハと淺深の交錯イレチカク可キ宜キと次打延スキ伸ハ只一也
 うみと海ナギサととるり河カハつらふナシ持ハラ鋸スキハナ熟ダシ者モノみ河
 うざれたナギサ輶モキツカ持ハラ使シし凡ナ犁ウラみク耕ウラみハ十シ人ヒトの力チカラも
 代カタとる是牛一疋ヒト人ヒトの八九口クハみりけカハつるシ成ナえシ
 又耕ウラみハ太巧タイカウ拙シロのウ名ナあハるコトとナりト也ナ也ナ堦ツキのヨク
 反カハ履カブゆト上ホのホとナ凡ナ人ヒトはハみレ及レ牛ウシ馬ウマ共ニに
 盡ヒメ日ヒメ泥ドロ中ニみ入て輶ヒカはル時トキハ甚オシ罷セて後ハ脚イを引牽カつコ
 くおレる也○近チカ江エ美ミ濃ノの水田イハ深フカ淖ナゆル也ナ牛ウシ耕ウラを用
 ひガくク人ヒト各ス一ヒト耜キと兼て田を耕也ナ大オホなるコトの故大オホ
 鋤スキじのひコとバ小コ鋤スキと稱つコト也ナ法ホウ玉タマ多オホく馬とて土ツチと

癸ケし田イと耕ウラちり馬牛ウシウマの農事ノウシにおけるコト也ナ

久波コハ 古事記

鍤ツキ 音燥 ○漢 溝洫志 市イチ 亦作鐵テツ 鍾シユウ ○農政全書古謂市今謂鉄一
 間謂之フ 鍤ツキ 或謂鍤ツキ 江淮南楚之間謂之市 趙魏之間謂之泉
 鍤ツキ 也ナ 鋤スキ 立ツキ 薙ヒキ 所用也ナ 是今イマ の立ツキ 鋤スキ あり○左傳註釋ス 鋤スキ 也ナ
 鋤スキ 基キ 孟子 ○史記史記 作ス 茲キ 基キ 鍤 鍤ツキ 州シユウ

蕃名ハナナ がララ アア フフ

久波コハ はハ 啖クハ 啖クハ とフ ぐグ とシ 首カミ の曲カマ て利キ く地チ と斫キ
 ば啖クハ づズ るコト ぐグ とシ 有ア るコト ありナ 有ア るコト ありナ 有ア るコト ありナ 有ア るコト ありナ

端尖^{サキトカシ}ると鏡先^{ヒラサキ}とらひ方^{カタ}あるとハ筒先^{ツツサキ}ともんつ小按^{コアヒ}子
 和名鈔子^{ワナシ}釜^{カマ}と久波^{クハ}とし字鏡^{ジキョウ}子ハ鐸^{タカ}ハ釜也須^ス伎^キと刻^キと
 れバいあしハ須^ス伎^キ久波^{クハ}面^{オモテ}してつらふと々の套^{イヒナラフシ}語
 のおとし^{モロコシ}筋^{スジ}土^{ツチ}もてもあハ市^{イチ}とらひ今^{イマ}ハ鈹^{タキ}といふと有
 て後^{ノチ}ハくして耕^{ウツ}にもの^{モノ}と扱^{ウツ}あつて鈹^{タキ}とし^シ牛^{ウシ}して土^{ツチ}埃^{アホ}
 とも^{トモ}鈕^ネとつらふとよなり^{ヨナリ}も昔^{イマ}事^{コト}玄義^{ゲンギ}曰^{イハレ}男^{オトコ}弓^{ユミ}弭^メ之物^{モノ}忌^{イム}
 鈹^{タキ}忌^{イム}鈹^{タキ}類^{ルイ}是^シ也^{ナリ}ととも志^シ保^ホし^シれば古^コは鈹^{タキ}鈹^{タキ}ととも調^{ツツギ}賦^{メイ}
 子^コ免^メし^シあく^ク々^々も^モ歳^{サイ}内^{ナイ}神^{カミ}祠^{ヒラ}子^コ鈹^{タキ}鈹^{タキ}納^{ノウ}め^メり^リし^シもの
 狩^{カシ}遠^{トホ}り^リる^ル尾^ビ張^{チヤウ}風^{フウ}土^{ツチ}記^キ海^{カイ}部^ブ郡^{クニ}大^{ダイ}井^{エイ}田^{テン}郷^{キヤウ}出^デ年^{ネン}貢^{キョウ}籠^{リウ}鈹^{タキ}鈹^{タキ}
 鍾^{シユウ}等^{トウ}民^{ミン}用^{ユウ}繁^{ハン}又^{マタ}む^ムり^リ鈹^{タキ}鈹^{タキ}ととも^{トモ}鈹^{タキ}とい^イも^モ式^{シキ}あり^リ今^{イマ}も

也^{ナリ}鄙^{ヒナ}の^ノ農^{ノウ}戸^コが^ガあ^アる^ル大^{ダイ}と^トあり^リき^キ大^{ダイ}神^{カミ}宮^{ミヤ}式^{シキ}凡^{ソラ}操^{ソウ}營^{エイ}神^{カミ}田^{テン}鈕^ネ
 釜^{カマ}柄^ヘ者^{シヤ}每^{スベテ}年^{ネン}二^ニ月^{ゲツ}先^{マシ}祭^{サイ}山^{サン}口^{コウ}及^キ木^キ本^{ホン}然^{ゼン}後^ゴ採^{サイ}之^シ大^{ダイ}神^{カミ}宮^{ミヤ}鈹^{タキ}
 山^{サン}の^ノ神^{カミ}事^{コト}の^ノあ^アと^ト雜^{ソク}例^{レイ}集^{シユ}に^ニ載^{サイ}り^リ元^{ゲン}孫^{ソン}の^ノ頃^{キョウ}も^モ古^コ神^{カミ}田^{テン}の^ノ用^{ユウ}の^ノ
 し^シ林^{リン}に^ニて^テ造^{ゾウ}る^ル釜^{カマ}形^{ケイ}按^{アヒ}神^{カミ}名^ナ式^{シキ}尾^ビ張^{チヤウ}國^{クニ}諸^{シヨ}鈹^{タキ}諸^{シヨ}鐸^{タカ}等^{トウ}の^ノ
 神^{カミ}社^{シャ}あり^リ今^{イマ}も^モ更^{マシ}濃^{ノウ}ま^マハ^ハ鋸^{ノコギリ}一^{イツ}と^トあ^アる^ル一^{イツ}ハ^ハ押^{オシ}一^{イツ}ハ^ハ
 引^{ヒキ}つ^ツ耕^{ウツ}也^{ナリ}是^シ諸^{シヨ}鈹^{タキ}て^テま^マの^ノま^マて^テ古^コの^ノ造^{ゾウ}法^{ホウ}も^モ一^{イツ}し^シ
 周^{シユウ}禮^{レイ}注^{チュウ}古^コ者^{シヤ}耜^シ一^{イツ}金^{キン}兩^{リウ}人^{ニン}併^{ヘイ}發^{ハツ}之^シと^ト論^{ロン}語^ゴ耦^ウ而^ニ耕^{ウツ}ま^マと^トわ
 れ^レバ^バ和^ワ漢^{カン}とも^{トモ}い^イハ^ハ一^{イツ}の^ノわ^ワさ^サハ^ハ一^{イツ}揆^{ケイ}ま^マや^ヤ又^{マタ}蝦^セ夷^イま^マ
 鈹^{タキ}先^{マシ}つ^ツ物^{モノ}あり^リ極^{キョク}て^テ大^{ダイ}き^キい^イふ^フ一^{イツ}諸^{シヨ}耜^シの^ノ屬^{シュツ}も^モて^テ先^{マシ}
 王^{オウ}夷^イ人^{ニン}へ^ヘ農^{ノウ}と^ト勸^{ケン}り^リ爲^シる^ル郷^{キヤウ}の^ノ鈹^{タキ}ま^マと^ト一^{イツ}に^ニ此^{コト}

湫先ハ夫人極て重き寶として病む時子枕神よ立て災
 と禳ふ物より慈姑コウコの葉乃冥るるゝ象象曹の湫形と加
 かなとの日ていふ一ハ靈寶とせしめよ、此又
 冥東あて牛耕と用おと其民水田と耕ウツみハ湫モツを番モツを信
 ひ着てや水と搏ウチは時泥の激トビて水と浼ユキぎふに備ふる
 所の淮南子謂禹之時天下大水禹執番車以為民先沅湘
之間申謂之番番車とありの言へし

馬鋤カ式延喜

馬齒ウマ立ウマ辨ウマ成ウマ色

毛宇賀

抄音抄三才圖會○農政全書
 抄と耙と分て二物と云

著名

此の馬子懸カケて田と作る具とれバ宇麻久波カシキと云ふ
 あり馬齒ウマは形よ象る感カ云即馬鋤ウマの畧あり々程麻久波
 麻牟具波カシキなど呼ぶともし凡三番カシキ打起カシキの時田中カシキに
 と踏カシキ入カシキつカシキ水カシキ波カシキ激カシキけカシキて馬カシキ子カシキ此カシキとカシキ輓カシキて田土カシキの塊カシキとカシキ碎カシキ
 破カシキり泥カシキ澤カシキと一面カシキに熟カシキ均カシキなり馬カシキハ終カシキ日カシキ泥カシキ澤カシキの中カシキと川カシキ也
 され疲カシキ困カシキむカシキ一カシキ包カシキ脚カシキ冷カシキ汗カシキ血カシキ涕カシキるカシキゆ急カシキ此カシキのカシキ勢カシキせぬカシキ時
 ハ子カシキく射カシキして血カシキとカシキり息カシキめカシキ女子カシキ使カシキのカシキ勞カシキ多カシキきカシキさカシキるカシキやカシキ小
 とカシキ急カシキすカシキあカシキとカシキ○凡カシキ抄カシキ又人馬水陸カシキ其カシキ子カシキ通カシキて用カシキう漢カシキよて

は犁の後耙哉用ぬ耙の後抄、以用ぬ又碌磳と用へり

渥ヒト加伎ヒト定家假ヒト字遣

渥佐良衣ヒト輓把ヒト

耙ヒト音填亦作輓把ヒト把篇海犂属ヒト和名鈔引唐韻把作田具
也ヒト〇說文平田器ヒト〇三才圖會列鑿方竅以齒為節畦畛
之間搜剔塊壤ヒト〇農政全書宋魏之間呼為渠犂又謂渠疎
〇陸龜蒙云凡耕而後有耙今日只知犂深為功不知耙細
為全功蓋耙徧數惟多為熟熟則ヒト 鋏齒鑄鍊ヒト 齊氏ヒト 人字
上有油土四指可沒鷄卵為得ヒト 間呼為渠犂又謂渠疎ヒト

蕃名

此々の延喜内膳式等子陸田浅耕に耙犂といふあり

每あり用て馬耕り代り盡し各田のゴとヒト抄把ヒトいま
編かゞ或ハる牛入がゞヒト序待田ヒトの畝ヒト所ヒト變ヒトなりど一
人輓き一人之とヒト按田土ヒトと疏ヒト通ヒトり又陸田ヒトあて一人
卻行ヒトして耙ヒト少ヒト耙ヒト蓋ヒトものありヒト漢の人字耙ハ人字上
按子渥ヒトかゞヒトとヒトのヒトあヒトえヒトとヒトのヒトあヒトのヒト田土ヒトと耙ヒト蓋ヒト
次等の用ハ金を回ヒトくヒトのヒト木柄ヒトと索緒ヒトとのヒトあヒトり
てヒトのヒトあヒトりヒトのヒト

長ヒト刀ヒト耜ヒト亦長刀鋤ヒトるも長刀ハ長き刀の畧ヒトありと長剣
小柄ヒト耜ヒトの名ヒトとヒトまヒトきヒトれヒトハヒト難ヒト刀ヒトと書ヒトふヒトとヒトあり

鋒齊民要術○農政全書鋒古農器也其金比犁鏡小而如
而後耕牛乃省力又不乏刃農書云無鋤而耕曰耨既鋒矣
固不必耕蓋鋒與耨相類今耨多用歧頭若易鋒為耨亦可
代也近世農家不知此器亦不知
名茲特錄其功用知為不可廢也

蕃名

此ものは新用の平地と牛馬の腹控せて草木を焼し
の乱根と裁断し用は所を刃を尖刀に似せて其脊の方
に鋒刃とつ柄ハ耨の如くし中らに環状着耕索と
貫し牛盤小整馬なり其柄の端ハ横股と籠し其口にて
扱つ畜の力とて挽つるなり其土塊は鋤破荆棘の拔
と切通はる利剣毛と次の快は比次愈しかくして後

犁抄 直便ヌキ 子ヲツテ
き敏小 壘ヌミカ 乃功と遠タヒラキ あり 為藩嘗ハハ 此ツクシ の成用ヌキ 乃子
畝の完荒とふせしものあり其用と按オキラ 乃土の鋒モロコシ 耨
ふ此のものを其の制カダ 子フル 符アリ あり

小鍬 書紀○集解に見ゆ
鍬亦小鍬の名あり
古須岐 是亦小鋤也
小扱 細鋤

杓 音發亦作楡コクニ ○和名鋤引コクニ 唐韻杓鋤屬也○農政全書杓
之鍬杓惟空土エ刺木ノキ 為首謂之木杓可
櫟穀物以竹為之者ハハ 准人謂之竹楊杓

蕃名アールドニケツプル 擲土ハハ スコツフル子イ小 鍬



仁徳の大津歌に継根ふ山背女乃あはけ持うちし大根
 ちわくまるとあり女の執て土とあ起し落當成抜るの鍬
 と阿れハ々の挿るりの子似り私記にハ本鍬と
 漢語鈔乃古須岐と本鋤とやろけ金鉏に對へるよさ
 バ此ものハ考土球扱ひ地と掘るの具ふて後ハ穀挿
 とあはバ稲妻の類と衝きり料ありて又其端を鋸し
 て及とつけしハ芒のきれに子か〜んるちり又竹筒三
 と一と阿らきあるやうに傳付て毛刺となしぬる是等
 ハ竹揚杓とぞもや々の細鋤ハ鍬扱てハ屬あるべし凡
 ハハ〜のハ子簡易ハして一物二事と兼つるのぬ

殊に其質ヲ精緻牢固ありき々々も大和春日三輪とぞよ
 遺とふ大むり〜れ器具とぞんるもあるべし

大鍬 貞觀儀式鍬とよめり漢語鈔亦おれし蓋ハハハは
 子器一名のまじ或是南時の俗字ハ様とぞと
 らび

山鍬 本山野と壑開と撃あのと
 のと用うあり此名あり

鍬 音嬰説文大鉏也
 錯音灼爾雅鍬也

所以上三才圖
 會引爾雅

阿鏑 正字通阿訓大
 譌而為烏鏑

錯所 魯

蕃名

農政全書鍬主以除物根株也蓋農家開闢地土用以屬荒

凡、田間山野之間用之者、又有闊狹大小之分、總名曰鑿按、
其圖をくろ新ハケの所謂山鋤なり

中 亦 中 挽
中 把 和 爾

前 把 和 爾

鐸 音 鐸 今 作 耨 農 政 全 書 の 爾 雅 所 斷 謂 之 定 廣 雅 定 謂 之
耨 耨 ○ 孟 子 易 耨 ○ 淮 南 子 治 國 者 若 耨 田 去 害 苗 者 而 已
○ 字 詁 耨 頭 長 六 寸 柄 長 六 尺 以 芸 田 也 ○ 左 傳 註 耨 鋤 也
但 說 文 穠 耕 禾 間 耨 耨 中 把 の わ ざ り 也

蕃 名

凡 耕 と 加 幾 と と っ け 耨 田 の 代 へ 記 して ざ り ぶ
ど あ る も 耕 して ば づ くと お れ し き が ぶ くと 此 考 の 裏 へ

龜の甲のカおとカ中カ際カくうカらカへカ粟カ麥カあカどカ乃カ畦カ隴カ也カ挽カて
卻カ行カとカれカバカ壤カハカ隨カ左カ右カ一カ分カとカてカおカのカもカとカ莖カ根カ子カ耨カふ
已カ故カ農カ圃カ陸カ田カとカ培カ壅カのカ要カ器カとカせカり

古コ奈ナ志シ鋤シ とシ 和カ熟カとカとカふカとカふカとカふカ
とシいシりシ出シるシとシふシとシふシ

勝カ杷カ 加カ賀カ鋤カ

耨 音 憂 說 文 摩 田 器 ○ 論 語 註 耨 覆 種 也 ○ 莊 子 註 耨 鋤
也 ○ 淮 南 子 耨 耨 耨 鋤 ○ 史 記 耕 之 耨 之 鉏 之 耨 之

蕃 名

按 農 政 全 書 耨 鋤 の 圖 何 り 云 耨 為 鉏 柄 也 未 詳 ぞ ぞ
小 似 ぞ ぞ 又 云 北 方 陸 田 舉 皆 用 耨 鉏 江 淮 間 但 用 直 項 鋤

頭ヲ又雖鋤也其用如刷是名鑿鉏トありふくれハ耨鉏ハ
 北方のものをて鑿鉏ト一物ありふし

衣布利漢語

古與世把寄の約

田奈良志多識

田盪農書

八音ハ或作憂樹和名鈔引郭璞方言注把之無
 凡水田渥漉精熟然後踏糞入泥盪平田面乃可
 撒種此亦田盪之用也是亦碌礮と同功あり

按子柄實なり西州實と夫利とふふの物或ハ藁の
 具やく塵と撥入ふふと藁のぐくみし柄とつりをし

むは名わ也又渥田あの抄と鉏と立ぐくくよまもあ
 所と是よて把ませ泥と盪し耕よるべし凡ハ田の
 面と盪平子用の又其長柄れものハ土成把製はつり

土破和爾

横楳眠寤

田打槌多識

田槌俗語度年知

擾音憂字彙

木斫埴

田槌の記也

蕃名ビユクハアムル

はものあるハ堅塔と碎きあるハ築埧成むりる器よ用

ろとのならり又稻穗を落し〜毛はあきりては
 ののた使つて形常の扱ひに相違はれはれ
 の如きは利迂闊とて扱ひ用の扱ふ不便とて
 子芥は使ひ棒扱用さぬいさるる蓋人智の日本最捷な
 却て扱壞さるる事多し

鋤杖漢語鋤〇天武紀子小子部連鈕鋤て人わり鈕と
依比と訓れバ鋤と亦依比と呼びしあらんと云へ

草切鋤多識新鋤和漢三草取鎌其形異なり

小鋤訓蒙馬耳鋤農業全書馬の耳をわたりて

鐔音博和名鈔引國語註鋤属也
釋名迫地去草〇詩傳鐔鐔也

蕃名

絞田草去具あり書紀韓鋤之劍とあり古事記傳子
 依比は物を截断説と云言ふ須加比の切也又
古須伎と延て須加比と云る依比の本古事記解所
言の須加比と同き故子通はし借せるもや
 佩之劍小刀著其頸其鰐者於今謂佐比持神とありげ刀
 劍乃小きものと毛鋤といひさきげ鋤杖ハ杖の端ヲ
 鋤著るの名まてて竹藪を落すの山拂あ
 ー云一記ま津ハ助洛鋤津ハ積玉全書鋤柄云云
柄の謂と一記ま津ハ今俗ハ積玉全書鋤柄云云云
と輕なりと空穂物終るまさりの人もさきげつつ
 〇そおとくくアらるてれの阿らはないりてす
 〇はないりてはないりてす

けつろろと河れば是と鑄るや按又大神宮式は金銅鑄
 二枝 莖長各九寸三分 輪徑一寸一分
 とあれどは江農器よハあど

草削多識

韓鋤 和訓 根切鋤 江戸

鍬 字彙作鋤 三才圖會兩手持之但用前進
 錢其制似

鍬 非鍬 殆與鍬同 纂文曰養苗之道鋤不加耨 耨不加鍬 鍬
 柄長二尺又廣二寸以刺地除草此鍬之體用即與錢同

刻鋤 全浙 兵製

鑿鋤 形子象

鐙鋤 三才圖會刻草具也柄長四尺
 ○按漢の鐙ハ壺のごとし

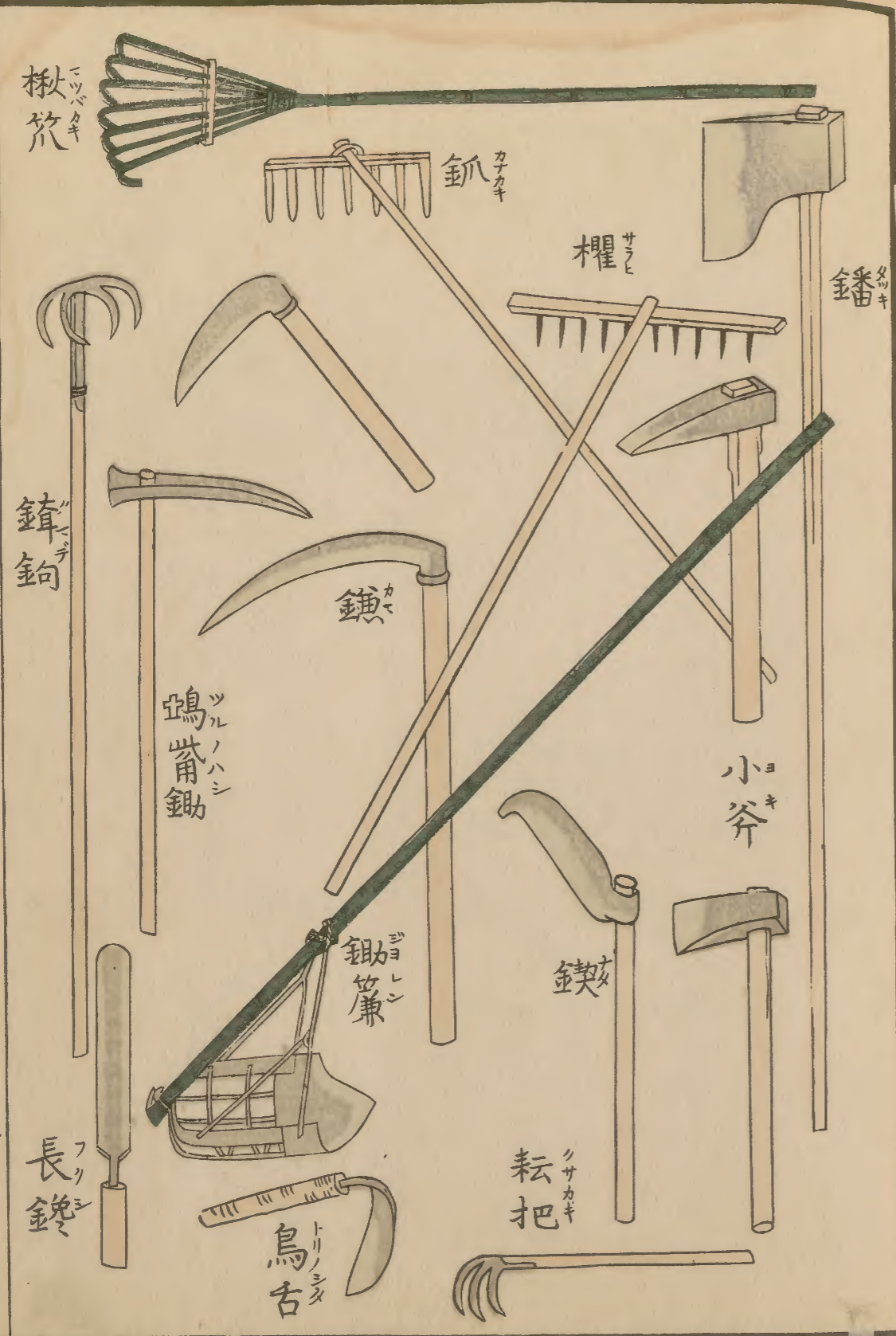
金鈎

櫛代 以上漢 麻年乃布 越中鋤 石田まどりの鋤の金子
 鋤簾 渠溝の淤泥と浚ふ

鈎 音拍和名鈎引 鋏搭 鋏把以上三才圖會○農政全
 此以代耕墾取其疏利仍就鑄鑄

蕃名ハアク鈎 モツドルシケツブ 鋤 簾

金鈎ハ積めて造るる瓜の如くなまじはかふかきとい
 ふ櫛代ハ其齒の柄に似るるより名あしあるべし又鋤



代也ともいつり万葉住調くろつくたぶしのききた
 けふもかゝ大宮人地玉原かゝらん梅子宋の張擇端り
 画く汴京清明上河圖よ農夫の田と耕の圖塔この金鉤
 と持てり蓋汴州の土堅緊あよふのものと用しあらん

佐良比新撰字鏡○俗言佐良衣凡物と復し清く
 木間佐良衣 俗駒極ふ 木乃葉爬 松葉爬
 櫂 音効和名鈎引方言云齊魯謂四齒杷
 以取 竹杷三才 五齒爬 圖書
 松楸 蕃名ホーイガフフル 亦ホルン

佐良比ノ甘著者ヲ云ルレリ記
 ルハ誤テハルクハ其止歯取ニ列
 ス卅ハローキテ訓當レリローキハ
 其齒櫛ニ列スルモノナリ

踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ}
 踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ} 踏^{フミ}



深^{フカ}田^タの泥^{ドロ}履^{ハキ}と履^{ハキ}
 て稲^{イネ}子の^コ実^ミ播^ヒく
 此^{ココ}の^ノ右^ミの^ノ指^{サシ}は
 ハ竹^{タケ}皮^カと着^キる也

凡^{ハタケ}陸^ノ田^ノの^ノ草^ノ刈^ノ引^ノ一^ノ不^ノ下^ノ肥^ノ糞^ノ或^ノハ肥^ノ壟^ノの^ノ台^ノ壇^ノか^ノき^ノさ^ノの^ノよ

此^{ココ}よ^ノの^ノと^ノつ^ノつ^ノと^ノ取^ノ照^ノえ^ノさ^ノさ^ノい^ノハ^ノ掃^ノ除^ノさ^ノり

熊^{クマ}手^テ 亦^モ言^ハ熊^{クマ} 羊^ヤ爪^{カキ}
 熊^{クマ}手^テ 手^テ鉤^{カケ} 土^{ツチ}爪^{カキ}

鑄^{シテ}鉤^{カケ} 集^{ツミ}韻^{イン} 長^{ナガ}鉤^{カケ} 鉤^{カケ}竿^{ササ} 竿^{ササ}以上^{イサ}通^{ツウ}鑑^{カン} 撓^{カク}鉤^{カケ} 海^{ウミ}防^{ボウ}纂^{サン}要^{ヤウ}

蕃^{ハシ}名^ナ

溝^{ミヅ}渠^カの^ノ壟^ノ芥^ノと^ノり^ノり^ノの^ノ流^ノと^ノ疏^ノ通^ノ次^ノの^ノ足^ノさ^ノり

草^{クサ}把^{カキ} 草^{クサ}取^テと^ト云^ハ云^ハ形^{ガタ}
 草^{クサ}取^テ 訓^{クニ}果^カ以上^{イサ}和^ワ

耘^{クサ}杷^{カキ} 農^{ノウ}政^{セイ}全^{ゼン}書^{ショ}以^{ヨリ}木^キ為^シ柄^{カバ}以^{ヨリ}鐵^{テツ}為^シ齒^シ用^{ヨリ}耘^{クサ}稻^{イネ}禾^カ又^{マタ}云^ハ耘^{クサ}盪^{ダウ}形^{ガタ}
 如^ニ木^キ屐^シ而^{シテ}實^ミ長^{ナガ}尺^シ餘^{ヨリ}開^カ二^ニ三^ニ寸^シ底^{ソコ}列^ツ短^{ミダ}釘^{チウ}二^ニ十^ニ餘^{ヨリ}枚^マ箕^シ

成形圖說卷之十三

二十三

其上以貫竹柄之際農人執之推齒禾壠間草泥
使之溷濁則既勝把鋤又代手足水田有手耘足耘

穀佐良衣多識 古通波和漢三才圖會蓋

穀把農政全書 透齒把同

蕃名ハアリ

布久志萬葉集〇和名

金籠カネハラ 鳥乃舌布久志と曲くま

長鏡杜甫寓同谷縣歌〇集韻鏡土具

蕃名

萬葉代匠記曰布久志ハ金をてるのやうにあらう

て菜摘女の持めのふり是もてのきりきりてさるな

ア常ハ布久世とあり 畧解曰布久志ハ保苗の約布

鶴乃棠固本

鷓鴣鋤歙硯

蕃名ビールハアムル

是石匠の具とらつとと田舎赤はものどつと

加麻古事記〇和名鈔引方言刈劔

刈小鎌萬葉 草刈鎌夏の路乃草刈

良須鎌又鉈鎌あり 鉈鎌刈鎌ハのどけりりり

鍬 音廣亦作鑿事物紀原鍬三代之田器也○鍬集韻鍬也
鍬○正字通刈禾鍬曰刈鉤亦曰鉤曰鍬詩鍬艾朱傳獲禾
短鍬也小爾雅截穎謂之鉏 鉏鉏 農政 鉏鉏 農政 鉏鉏 農政
○三才圖會刈刀穫麻刀也 鉏鉏 農政 鉏鉏 農政 鉏鉏 農政
所稻鍬所稻鍬 珠寶 鉏鉏 農政 鉏鉏 農政

蕃名シクケル

加麻カマハ刈カあり鉤カありと據り駿河風土記引香具山
日記曰天叢雲劍或稱草薙劍草薙亦别名也草者生無主
之地此葦原自天孫降臨而後無草叢之神自專輝然焉猶
如繁叢逢利鍬拂其草葉故天孫降臨之後有草薙之号又
齋部記曰取燒鍬乃敏鍬之義とありいふくハ物とい
き法め除クと瀝カの草蕪クサムラと刈切キの敏功スミヤカをきりて藤原
大織冠の澤イサチと鍬足イサチとありいハそ路道イルカ入鹿イルカと據りて

斬キリ一ハと利瀝カの乱穢カと蠲除クヅグと功コトと搦揚カ
て名ナるれニとかり新アト猿サ歌カ子コ殘ノ乃ハとけ瀝カ
とそかハびハ人ノ也ナリ○瓊ユキ矛コ拾遺コ首コ
者加冠カク理リ髮ハ擇有德トク人以ヲ鍬カ剪髮カ之末ノ今イマ按ア理リ髮ハとハ理リ髮ハ
の謂イフ也ナリ三長記曰承元二年十二月廿五日東宮御元服
被理ヒキ改御カヒ髻ムネ云々云々 東宮トウキウハ 頌スベテ又類聚雜要抄曰理リ髮ハ具カ案ア
別ワケ薙髮トゲカミ故コト末額スエ髮カミ二流ニリウ簪ササガ釵サシ子コ彫ウツ櫛シ二枚ニマシ本結ホンムスビ日蔭ヒカゲ髮カミと云
訓マカ理リ如ニ字シ 末額スエ髮カミ二流ニリウ簪ササガ釵サシ子コ彫ウツ櫛シ二枚ニマシ本結ホンムスビ日蔭ヒカゲ髮カミと云
云 按ア本結ホンムスビハ神祇式カミ子コ髻ムネ髪カミと書りりカと云 頌スベテ者源
弘ニ賢ニ子コ也ナリ髪カミ法ホウのカとむりハカ後ノ雁ノ金ノ文ノ七
と云ハ本結ホンムスビのカと切キてしカりハ也ナリと云ハ本結ホンムスビと云ハ本結ホンムスビ
ていハつと云ハ本結ホンムスビのカと切キてしカりハ也ナリと云ハ本結ホンムスビと云ハ本結ホンムスビ
因ユて文ノ七ノ刺ノ子コ用ユてしカりハ也ナリと云ハ本結ホンムスビと云ハ本結ホンムスビ

成形圖說卷之十三

奈多 書紀鈔の字と訓に鈔字晉書東夷傳より見たり玉篇より大鎚也

奈伎鎚 儀式帳

鍬 音楔或作鐮鋤○農政全書鐮似刀而上彎如鑷而下直其背指厚長尺許柄盈二握以刈草木或所柴篠或代鑿斧一物兼用農家便之 彎刀 同上

蕃名 ハアクメス 亦セイヌ

奈多ハ雜断也と云へり今圖ある所の者葉新成所ニ竹ホビ割盡し其上端ハ寸許ノ距鉤あり物成ハ取ハ便次されども勿厚く柄太く草芥セハ蔓登りて是唐山の者と此のづりふあり

麻佐加利 紀書

多頭伎 和名鈔即廣又斧と云へり○古事記山多豆註

小斧 延喜式 新割

鉄鉞 禮王 鐮 集韻廣 小斧子 忘懷

蕃名

書紀ハ鍬の質とて新析し出とあるハ今の小斧とてしそ又の横あるもよて横切ハハハも也新撰字鏡ハ横刃斧とあり又斧行ハ今もハ匠斧セハハ手總斧の省もるも也書紀ハ鉄鉞賜ふふと書れハ漢籍より

れらるゝて突ハ節刀てふものゝ金葉集ハ伊勢の海
とのゝある江ハ朽もてて都のゝつりこれさざり
晋の王質ハ故事よて伊勢の小野よよせしものり

加慈伎 仲正歌集○蓋菟と踏みむし用

加武慈伎 太平記○今俗皮みて似きと賀武 泥田殿

曾利 堀川百首初涼雪ありみさるゝ一み何ちひて

雪舟 舟と似て又類葉為度の類よ及さるゝ記ハ雪車或ハ
一とにちやんの似あたるゝゝ曾利ハ載て索とつる
てわくゝとよめり北園よてハ曾利ハ 雪沓

橋 史記○韜字彙輿樞同○農政全書樞形如木箕摘行泥
土農人欲就泥裂漫撒麥種奈泥深恐沒故制木板為履

前頭及兩邊昆起如箕綴毛繩前 桐漢書或作樞是ハ此
後繫足底板既闊則舉步不陷 上テ山ハ蹉跌さるゝ

凌 牀沈存中筆談信安滄景之間冬 秧馬農政

以榆棘為腹欽其滑以楸梧為背欽其輕腹如小舟昂其首
尾背如覆瓦以便兩脚雀躍干泥中繫束藁其首以縛袂日
行 十 薈馬 於内而上控于腰畔乘之兩股既寬行壠上不

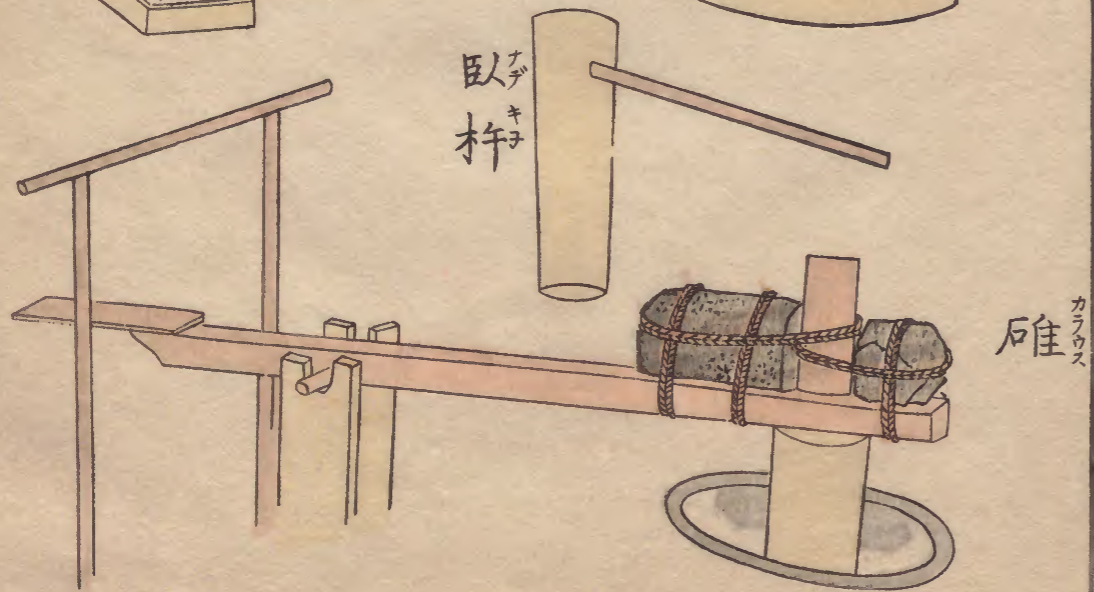
行 廢苗 薈馬 於内而上控于腰畔乘之兩股既寬行壠上不

蕃名 モ ツドルモイル 樞 ラプルス 雪沓 シカプツ 氷上

足のどとく杖より諸と着て左足のものハ右肩ハ懸右
足のは左肩みして歩と進つ泥の上とゆき或ハ塊と樞
碎き泥と川瀬し或實播の穉種と下あり各所不同

收三十束工大省○のふしは稲柳柄箸かどつもの
よて稲掬りしともの後ハ稲穰シラ麥カ稻カとかひそろ
つゆはのこつりひるこはとの稲掬りしものと他
に出せしよりひるこはの瘡ツルハシよりき按ツルハシハ氣吹抄ツルハシ
串刺シラつものけ上より稲穂と取ツルハシハ鶴葉ツルハシと著
よ本紙ツルハシも穂ツルハシ扱ツルハシるふ人乃田地ツルハシ犯ツルハシし稲ツルハシと著
んどせんあけさやうのふとあては増ツルハシあつたはあふ久
志左志ツルハシてあものつ用ツルハシやうり賊盜律ツルハシ曰其盜之ツルハシ籩稻者損
天功之罪也造之者同罪云々籩稻ツルハシ乃字ツルハシ著眼ツルハシ寸分ツルハシ一
形掃ツルハシハ似ツルハシるものゆえ久志乃名ツルハシあり稲ツルハシ田舎ツルハシ乃ツルハシ

籩稻ツルハシあど今ツルハシあつたあり撰津風土記曰河邊郡山木
保籩稻ツルハシ村者ツルハシ 大鷲ツルハシ鷲ツルハシ天皇御宇津直冲名田也木名柏葉ツルハシ
田冲名造田串罪以田贖ツルハシ焉故号籩稻村ツルハシ按今の残編風土記
お事談赤深法つう歌我怒ハ思ツルハシあはの稲串の葉末
乃家の為ツルハシと地ツルハシは是ツルハシあ代ツルハシ益ツルハシとの串刺のま風より
末代よむと稲扱ツルハシつもの作り出せしとてその門終
すらあ乃あま末親ツルハシせされども串刺ツルハシハ田札ありと
とつあはありていづとと稲ツルハシ益ツルハシしものあはれ
ハあはれつものあはれとハあはれと凡ツルハシ禾ツルハシ稲ツルハシと著
よのけ國ツルハシは律ツルハシあり大辟ツルハシハ刑ツルハシをツルハシあはれをいふ



よの串刺ちど犯やほ飛最重くりーふと知るべし

柄竿カラサホ和名

拵カキ古語拾遺○延喜式織具に加世伎と

輪杵ヒキキ

穀搗モミカキ

旋轉ケルリ振撥ウラヒ轉棒カガ車棒クルマ

連枷ツルギ亦作和名鈔引切韻打穀具也○釋名枷旣以

擊草○正字通連打穀具一云食又云耨耨穀具連枷

竹木為之扭折而用所以散落米粟也方言自関以

農政全書方言宋魏之間謂之攝殊父自関而西謂之憶齊

楚江淮之間謂之扶或稻耨志西湖輪棒王堂雜字

蕃名ドルスフレールゲル

此のものは西の竹の頭に孔して横木をさして針鋸の如き
軸ぬきつて柞ツルギの條スエ或ハ破竹コなるとニツ子フリ巧曲ニゲ柞の尻コよ
つちおたなら三才モト圖會アラカハわけ木條四莖モト生アラカハ華アラカハあゝ編アラカハと云

宗須タテマ古事記

豎タテマ曰蓋フタハハ横ヨコ曰ヨコハハ鋸ノコギリとハい

舂ウツ曰ウツ

幾ツギ杵ウチ紀キ即ツギ幾ツギ杵ウチ打木ウチキ

曰ツギ黃帝ウツ内傳ウツ帝既斬ウツ杵ウチ子ウチ義楚ウチ后ウチ曰ウチ後漢書ウチ○今ウチ石ウチ曰ウチ

搗ウチくウチ芝ウチ碓ウチのウチ漸ウチありウチ澆ウチとウチ碌ウチ々ウチ杵ウチ上ウチ

蕃名ヘイスルウチ白ウチスタムプルウチ亦ウチスタムプウチストツウチ

成形圖說卷之十三

三十一

以上搗臼 又タムブプロク 撫臼

宇須ハ打窠ノ義或謂宇ハ搗あり須ハ磨あり一名子兩
物あり猶今磨搗とつみぐごとし又上より下稜て中稍
細く杵ハ直あして両端太さと搗臼搗杵と云 宇林直舂
曰搗即杵 又よりして筒のぶとくそ槌上げ上の方短きものゝ撫臼
撫杵と云 楊升菴集卧杵 貞觀儀式曰ハ某腰杵ハ
某枚とあり○越風磴歌曰野人傳云人或有勞於耕稼者
早且往田執杵以為耒耕田三畝餘手足疲倦將休息檢之
乃杵也驚愕怪之再耕之不能復耕也其初為耒操心專一
力行不疑是以杵為耒之用既知非耒則杵亦不能為耒也

何則心為之主也誠於此者刑乎彼也石猶飲羽況於人乎
陶曰貞觀 儀式

按是燒物の臼也延喜神祇式に數所載する燒物にて
ハ米とくぐるとそをれぬと祠具の米ハ去糖マ何々
ざらざらゆゑともいつり又室町日記に胡餅よて飯米と
添されば通とと左家河々ぬを臼杵ふくく如何やん
とおろし所又夫是山林よりて木乃枝どもと伐為して
杵よして扱いり小も等し地と搗て楚と押込の臼あし
くはきられバ言語通断よきとくあり易敷辭よ
堯舜氏断木為杵掘地為臼蓋も殆ハ天然よして志く家

石部

柄白萬葉集

踏白畿内西の地方あり東國

柄白壺の郷談正音子碓圍

保呂志和名鈔引廣韻程碓程也

衡一石抵鳥木碓の前は鳥居に似たり

碓品字篋碓舂具木杵上之石嘴也

端石嘴と依り秋葵の穂と水は浸し汁と用て杵の

蕃名夕ラフヘイセル

此のハ磐磨と殊みし米と搗磨を用うる所あり

葉のかさしは田舎のよき吾兄子ハ小あに笑て

立ませるるゆとつと望沖ハ輕碓とつとよか

るりう次と田舎の下よき急て日が兄子ハ小く笑

て立ませるるゆとつと望沖ハ輕碓とつとよか

物渡六月は楳の蟬のあけかぐほしと挽りこころさ

られどあまハつとつと望沖ハ輕碓とつとよか

ハやうかそりこり桓子新論云伏羲制杵臼之利後世加

巧惜身踐碓而利十倍碓とて舂ハ米碎耗さる也

成形圖說卷之十三

三十三

横ヨコ 古事記典久須と讀め

磨スリ 和名鈔又須留

穀磨モミ 和名

音龍世本所以破穀出米也○三才圖會自山而東謂之

謂之木礪石礪者謂之石礪カ 籩稻ホ 木礪 木磨 穀托

石書纂要 土礪カ 幼學 挨粟 礪稻子 椿樞子 推礪

子談正音 蕃名コールンモール

此ものけ田家者穀成磨已米成作キ 具よして本白竹曰
子乃製あり田家乃製是よりゆきよ田曰とゆづり代通

久留返伎毛乃枕 田タ 曰ス 唐曰の

記まらるるしよものふ今のまらるるしよもの事

よ如眩の字と目のくらめくと云に用たり地のまらる

と俗まらるるくともくともくとも云物とこの理よりた

らりてまらるるまらるるまらるるし○竹曰ハ米碎も皮もらる

らり一五年ハ壇ハニと易竹成改メ されバ壇ヤナシ やまらるる今

多く本曰と用うされど右人の製ツク 阿ア まらるるし

曰乃眼メ 天工開物 引木ヒキキ 亦引手とも云

阿ア 通字須ツ 和名

引ヒキ 曰ス 石イシ 和爾雅ワニ ○越風磴歌訓曰越俗之所傳石曰屑

成形圖說卷之十三

三十四

麥ハキウス 白ハキウス 麥ハキウス 破ハキウス 粉ハキウス

磨ハキウス 說文石磴也蓋古の磴

品字 石碾五雜

上カウス 曰カウス 即碾也○三才圖會

主磨曰臍臍 引木同上 轉

注磨 曰眼

蕃名スラーンモール磨

天智紀高麗の曇徵碾磴と製とあれどと書紀集解引

景行紀大碓小碓二皇子之名義曰大碓即碾也小碓即磴

也とありしと宜ふる筈は必曇徵と始るは河

碾磴唐律碾磨上轉石

下カウス 曰カウス 昂磴也同上磨

宇須承同上 磨曰槃

保曾臍

白乃眼同上

磨子

此の石とてゆる全磴と回して其質本石の別と大小の
異あるのと同其名と立よ呼ぶり蓋杵臼の制變して巧
便と加へて柄臼と作ると又遂に水柄臼の設ありて臼磴
よむてけそ用事おのつり殊ふあり曰臼曰碓曰磨曰
磴四乃者方言猶異は古今或ハ混生ふとありある類
と作るといさう圖書なり

美 古事記○
即箕也

箕乃舌 本艸箕唇正音子籃

箕 音姬 篇海箕揚采去糠之具方言陳宋楚之間謂
之籬○凡箕の古文十餘字字典にん

成形圖說卷之十三

蕃名ワニ

通證引ト氏説曰箕者以去皮殼留子實故訓為實○此と
の和泉上村のものとも名あつて所謂和泉箕あり米と揚
る糠と去り簸と云ふ莊子に播糠眯目と讀むあり今
言ひはふり朱子談綺に箕をてふくと播弄と云ふとあ
る○曲禮に箕除塵埃之器と注せしハ国音塵取と云
はるものもて形箕の如く扱めて使ふと云ふり軍陣もてむ
り一塵取と稱しハ女負踐記と載おしものもて今の
通雙しと云ふに相似し

布流比和名

世伊籠

米透

西州より多く此と云ふ
東國よりハ穉子用

絹篩

即天工開
物同名あり

籬

音斯或作籬篠篩和名鈔引
説文篩除塵去細之竹器也

米篩

蕃名セーフ

籬は新撰字鏡に豆支布留布と訓り又曰籬ハ簸也此曾
曾留とあり今も箕と云ふ糠と去り簸と云ふ
人と云ふのかとあとの記あり○籬と云ふハ大小あり
凡そ眼の粗ハ透と云ふ密なるハ布留比と云ふり東
雅に布流といは振也と動かし用たりと云ふなり

鈎籠

篩穀籜 三才圖會

蕃名ハンズセーフ

麋宮 延喜鎮免祭式於官齋院
春稻歟以鹿宮炊以韓寬

穀車 多識通箕

賜扇 三才圖會○集韻賜風飛也揚穀器其制
中置箕軸刺穿四扇或六扇又謂之扇車

扇米風車

風扇車 天工開物 風櫃 玉堂雜字

蕃名ワンモール

式の春稻也阿るハ是叔搗^{モ三カチ}ま^{ヒル}之と歟^{モ三カチ}と^{トホ}透し歟

あるは屏篋とハ麋籠のぶとく其眼の麋蹄を合さてその
筥と阿るとるに今乃叔率乃製のおとまこれに倣い
て作り出せしむるべし後の干斛筥とありのも亦ハ屏
篋の変製にあつたりありと通箕と持ざる農夫ハ蟠道風
ふとの吹通を所ハ磨穀搗穀乃類哉迄の上におおと竹
窓或量ふとより吹る扇を以て稗糠ハ形散り来り迄の上
より下留ると俗に登保志といふ扇車とも登保志美とい
ふ扇車と志と省て登遠美といふ唐箕ふと書け形字な
り登と通音

穀篩多識

多天流 和漢三才圖會 今多く箕及桶と用ぬ風 糶糠と去はつたり 登保

志 節 亦名と曰く くそ

賜籃 三才圖會 形如箕而小前有木舌後有竹柄禾穗糠相雜執此操而向風擲之乃得淨穀不待車扇又勝箕

籩 邊箕 全斬 兵制

蕃名

千斛筵 和漢三才圖會

萬斛筵 但此との千斛遠より功多

蕃名ハルプ

此のの新制あり底なき大箱ニと重き上級の筵中より右より左に板と敷く級の箱中より右より左

は銅網に敷き網を緻密にして上より束糠のいもが敷

ぎるもの投下るより上級の板と右より左に敷く

の網とたよるより束糠の網より脱漏は漏らさずし

ておよ虫と別蓋より感るなり之は籠に比しけ力とい

は籠にして目より束糠の糶糠と去ふとふる右より左

おろしふるよ俗同阿り或謂是風車なり

成形圖說卷之十三終

御書物方

